

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580148

研究課題名(和文) 都市周縁の歴史と現在 比較研究 日本・韓国・フランス

研究課題名(英文) The History and Present Condition of Marginal Urban Social Groups: A Comparative Study of Japan, Korea and France.

研究代表者

佐賀 朝 (SAGA, ASHITA)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40319778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近現代都市における周縁的諸存在について、都市史・都市社会学・文化人類学などにわたる学際的アプローチを通じて、その解明を進めたものである。具体的には、日本の大阪、韓国の釜山・済州島などの諸地域における都市下層住民の空間分布やその労働・居住・生活形態と社会的諸関係の実態を明らかにするとともに、移民史の視点から、済州島と大阪・生野を行き来する在日コリアンの生活史を個人レベルで明らかにした。

以上の日韓比較・関係史をフランス・パリとも対比し、パリの旧市街周縁部や「郊外」における各時代の下層住民の生活・居住形態とその社会的諸関係を分析するとともに、大阪・釜山などとの共通性と差異を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The present study advances research on marginal urban social groups in the modern and contemporary eras with an interdisciplinary approach that encompasses such fields as urban history, urban social studies, and anthropology. Specifically, it reveals the realities of the spatial distribution, modes of labor, living situation, lifestyle, and social relations of urban lower classes in Osaka, Japan and in Busan and Cheju Island, Korea. Additionally, it sheds light on the individual life histories of Korean migrants from Cheju Island to Ikuno in Osaka from the perspective of immigration history.

In addition to this comparative approach between Japan and Korea, this study also draws connections with French history. Along with an analysis of the lifestyle, living situation, and social relations of the lower classes of Paris's urban periphery and "suburban" areas across different historical periods, we reveal the commonalities and differences between Paris, Osaka, and Busan.

研究分野：日本史

キーワード：都市下層 比較史 移民 都市社会史 都市社会学

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の前提

本研究は、研究参加者の、次のような研究や研究交流の蓄積をふまえ、その接点で構想された。

日韓の都市史・都市社会学の比較と交流

伊地知・川野・佐賀は、これまで「都市周縁研究会」を組織し、2011年2月の大阪市立大学・釜山大学校との国際シンポを担うなど、近代の都市下層社会、現代における貧困問題、在日コリアンや済州島を結節点とする日韓の地域間移動と移民問題などを主題に、歴史・現在の双方にわたり、日本と韓国の比較と交流の研究を進めてきた。

日本都市史における比較都市史研究

仁木は同じく大阪市立大学の学内競争的資金による「重点研究」の下で組織した「関西比較中世都市研究会」を通じて西欧・アジア・日本の中世都市の比較研究、塚田は、自身が代表をつとめる「近世大坂研究会」(科研・基盤研究(B))で貧困と救済、都市周縁身分の日本・西欧・アジアの比較史に、それぞれ取り組んできた。

都市社会学における日仏の現代都市の比較

川野は、自身の研究でフランス現代都市における都市周辺部(「郊外」)の貧困問題・コミュニティ形成の検討や、大阪におけるホームレス調査などを通じて、現代都市下層の実態調査に取り組み、日仏の比較研究を進めてきた。

本研究では、以上の要素を結合し、日本と韓国、フランスの諸都市を対象に、都市周縁の歴史と現在を比較史的に、また歴史と現在にまたがって共同で分析した。

具体的には、上記の蓄積を前提に、(1) 韓国の主に釜山をフィールドとした都市史・現代都市研究との比較・交流、(2) フランスにおけるパリとその周辺の現代貧困問題研究、都市社会史分野における日仏都市史の方法論の比較研究、(3) 三国における都市史・現代都市調査の方法の対照・交流にもとづく、歴史・現代を貫く都市社会調査・方法論の融合・深化などに取り組んだ。

その際、韓国については、交流の実績がある釜山大学校、フランスについては、川野、塚田がパイプを持つフランス国立社会科学高等研究院を連携先として共同研究を組織しつつ、国際的な研究交流を進めた。

(2) 研究意義

日韓の都市比較史や地域間移動、移民問題については一定の研究蓄積があるが、都市内部の社会構造を本格的に分析した研究は少なく、蓄積のある在日コリアン研究と、都市社会構造分析を接合する必要がある。韓国でも都市史研究が急速に進展しつつあるが、その蓄積は十分とはいえず、前近代～近現代を通じて、都市内外の地域社会構造をいかに分析する作業を積み重ねる必要がある。

その際、注目されるのは東京大学の吉田伸之・伊藤毅らの研究グループ「とらっど3」が進めてきた日仏の都市比較史である。ここでは、都市社会に存在する具体的な事象(例えば下層民、貧困と救済問題、様々な生業など)の共通性と差異を、史料分析方法の対比・交流も含め、微細なレベルで比較することを通じて、所有を基礎にした社会的諸関係の復元と比較研究を進める方法(「細部から深層へ」)が実践されている。巨大都市であるパリと江戸、地方城下町であるシャルルヴィルと飯田などを素材として、比較研究が深められつつある。

本研究は、こうした視点をふまえ、都市の周縁的な問題(都市下層と貧困、性売買問題など)を素材に、共同と接触・対照を進め、歴史と現代を貫く都市社会の調査・方法論の構築を目ざすこととした。

2. 研究の目的

本研究は、「細部から深層へ」という社会構造をふまえた比較史の視角と、在日コリアン研究や現代都市貧困論などの視点や成果をふまえて、都市の周縁的な問題(都市下層と貧困、性売買問題など)に分析をくわえ、歴史と現代を貫く社会科学的方法の発展を目ざしたものである。

その際、日仏といった二項対比型の比較研究ではなく、日本との間に歴史的共通性と直接的連関を持つ韓国をも研究対象に組み込むことで、比較史と関係論の双方をふまえた日仏韓の新たな比較研究を目指した。

すなわち、(1) 都市下層や貧困問題を代表とする「都市の周縁」を具体的テーマに設定し、(2) 歴史と現代を貫いて分析対象に据え、歴史学と社会学的方法的接合もはかりつつ、(3) 日仏韓の比較という形で参照対象を多極化し、資料論・調査論のレベルまで踏み込んだ方法的交流と新しい方法論の構築をはかること、以上を目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、以下の研究活動を主軸・副軸とする形で展開された。

(1) 主軸としたのは、以下の二つを内容とする三国共同の学祭交流・共同研究である。

シンポジウム(研究成果の対照・比較研究)

資料分析ワークショップ(分析対象資料とそれへのアプローチの比較)

共同調査(調査方法論の接触・交流)

(2) 副軸として、中心軸を支えるための日本国内における二つの研究活動を行った。

基礎的な調査研究(都市史の資料調査、現代貧困問題調査、在日コリアン調査など)

歴史学・社会学的方法的交流・接合(「都市周縁研究会」をベースとした共同研究)

4. 研究成果

本研究は、近現代都市における周縁的諸存在について、都市史・都市社会学・文化人類

学などにわたる学際的アプローチを通じて、その解明を進めたものである。具体的には、日本の大阪、韓国の釜山・済州島などの諸地域における都市下層住民の空間分布やその労働・居住・生活形態と社会的諸関係の実態を明らかにするとともに、移民史の視点から、済州島と大阪・生野を行き来する在日コリアンの生活史を個人レベルで明らかにした。

3年間の研究期間において、共同研究のベースとなる都市周縁研究会を通算8回開催した。2013～14年度は、社会学・歴史学諸分野における都市貧困問題に関わる成果の書評やパリでのセミナーの準備研究会を軸として開催、2015年度は、釜山大学校韓民族文化研究所との共同研究の一環として、研究報告を主体に開催した。国際共同シンポジウムもしくはワークショップ、セミナー等を通算で6回開催した。このうち、大きな柱となったのは、第一に釜山大学校との共同企画であり、2013年度の前近代史を中心とした国際シンポ、2014年度のワークショップを経て、2015年度には、3回にわたる共同研究会ないしは国際シンポを開催し、「都市と共生」をテーマに都市周縁を中核とした都市社会問題を歴史・現代を貫通する多角的な視点から検討した。2015年度以降の共同研究成果については、2017年5月に釜山大学校との共著本の刊行が予定されている。第二は、フランス国立社会科学高等研究院との共同企画として2015年3月にパリで開催した国際セミナー「日仏都市における社会的降格：歴史学と社会学の視点の交差」である。本セミナーは、フランスの第一線の歴史学者・社会学者と本共同研究のメンバーが一同に会して、日仏および韓国における都市周縁の問題を論じ合ったものである。本セミナーの成果は、私家版の国際セミナー報告集として日仏両言語で取りまとめたが、フランス側執筆者への配慮もあり、公表は保留している。将来的には何らかの形でその成果を世に問いたい。なお、本セミナーのうち、近代大阪の都市史に関わる複数の報告については、フランスの都市史研究雑誌「Histoire Urbaine」の近代大阪における都市周縁に関する特集企画として2017年に掲載の予定である。

以上の取り組みを通じて、本研究では、日韓比較・関係史をフランス・パリとも対比し、パリの旧市街周縁部や「郊外」における各時代の下層住民の生活・居住形態とその社会的諸関係を分析するとともに、大阪・釜山などの共通性と差異を明らかにした。調査論レベルでの、都市史と都市社会学との接合については、文字通り挑戦的な取り組みとなったが、方法的融合の域には依然、容易には達しておらず、方法的接触の意識的な継続が、今後も関係者の課題となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 23件)

佐賀 朝、東アジア都市の社会構造・自治・文化形成の比較史に向けて 日本近世～近代都市史の立場から、文学研究科叢書 9 東アジアの都市構造と集団性、査読無、2016、301-310

川野英二、Preseption on poverty and neighborhood Effects in Osaka、UrbanScope、査読無、7巻、2016、1-20

塚田 孝、都市社会史の方法 日本近世都市史研究の展開と大阪、文学研究科叢書 9 東アジアの都市構造と集団性、査読無、2016、4-24

佐賀 朝、近代遊廓社会史研究の課題と展望 『シリーズ遊廓社会2』を素材に考える、部落問題研究、査読有、211巻、2015、71-88

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(15・下)金慶海さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、25巻、2015、99-125

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(15・中)金慶海さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、24巻、2015、163-190

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(15・上)金慶海さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、23巻、2015、225-250

佐賀 朝、大正～昭和初年の都市大阪における市場社会、歴史科学、査読有、217号、2014、4-23

伊地知紀子、高正子、藤永壯、韓国済州からの渡日史 東回泉マウル調査の事例から、コリアン・スタディーズ、査読有、2巻、2014、117-131

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(14・下)金玉来さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、22巻、2014、123-138

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の

生活史調査(14・上)金玉来さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、21 巻、2014、55-74

Takahiro Tabuchi、川野英二、et al.、Individualized and institutionalized residential place-based discrimination and self-rated health: across-sectional study of working-age general in Osaka city, Japan、BMN Public Health、査読有、14 巻、2014、449

Takahiro Tabuchi、川野英二、et al.、Determinants of participate cancer screening: A simple analytical framework to account for healthy-user bias、Cancer Science、査読有、106 巻、2015、108-114

塚田 孝、近世大坂の身分的周縁、思想、査読有、1084 巻、2014、46-63

佐賀 朝、近世～近代大阪の貧困と救済に関する覚書、塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の比較史 法と社会の視点から』(清文堂出版) 査読無、2014、409-420

塚田 孝、17 世紀後期・大坂における非人の家、塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の比較史 法と社会の視点から』(清文堂出版) 査読無、2014、193-218

仁木 宏、戦国時代の城下町における『町づくり』 1575 年、駿河国駿府(静岡市)の事例から、都市文化研究、査読有、16 巻、2014、56-64

塚田 孝、Early Modern Osaka Hinin and the Population Registers、in D.Chapman and K.J.Krogness(eds), Japan' Household Registration System and Citizenship: Koseki, Identification and Documentation, London: Routledge. 査読無、2014、21-42

伊地知紀子、韓国における現代の巡礼 無事な死を悼む旅路、愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会編『巡礼の歴史と現在 四国遍路と世界の巡礼』(岩田書院) 査読無、2013、323-342

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(12・下)李性好さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、18 巻、2013、159-176

- ②① 伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩、解放直後・在日済州島出身者の

生活史調査(12・上)李性好さんへのインタビュー記録、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読無、18 巻、2013、139-157

- ②② 川野英二、東京オリンピックの前に、都市社会政策と貧困と考える フランス、アメリカ、大阪から、シノドス電子ジャーナル、査読無、2013 年 12 月 31 日号、2013

- ②③ 塚田 孝、近世大坂の非人と人別帳、部落問題研究、査読有、206 号、2013、49-71

[学会発表](計 33 件)

佐賀 朝、1900～1930 年代の大坂における町・町会と学区、釜山大学校民族文化研究所・大阪市立大学都市文化研究センター国際学術共同シンポジウム「都市と人間」2016 年 2 月 20 日、釜山大学校(大韓民国)

伊地知紀子、都市移住者のローカルなふるまい 在日済州島出身者の移動史を通して、釜山大学校民族文化研究所・大阪市立大学都市文化研究センター国際学術共同シンポジウム「都市と人間」2016 年 2 月 20 日、釜山大学校(大韓民国)

川野英二、パリの都市社会政策とジェントリフィケーション、シンポジウム「パリで何が起こったのか? 11.13 同時テロを考える [都市が壊れるとき part3]」、2015 年 12 月 4 日

佐賀 朝、1900～1930 年代の大坂における町・町会と学区、第三回上海大学・大阪市立大学国際シンポジウム「近世～近現代の都市社会と資料・文化財保存」、2015 年 11 月 16 日、上海大学(中華人民共和国)

伊地知紀子、19 世紀末以降の済州島から見た生活圏形成と変容 チャムス(海女)の移動と操業実態をとおして、2015 東アジア海洋都市国際学術会議、2015 年 11 月 26 日、済州大学校(大韓民国)

塚田 孝、近世大坂の都市社会構造 17 世紀の三津寺町を中心に、第三回上海大学・大阪市立大学国際共同シンポジウム「近世～近代の都市社会と資料・文化財保存」、2015 年 11 月 14 日、上海大学(中華人民共和国)

川野英二、大阪のジェントリフィケーションと近隣効果、釜山大学校民族文化研究所・大阪市立大学文化研究センター第 1 回共同研究会、2015 年 11 月 7 日、釜山大学校(大韓民国)

伊地知紀子、日本人学者がみる在日済州人の生と文化、慶北大学校グローバル文化コンテンツ創意人材養成講座、2015 年 9 月 15 日、慶北大学校(大韓民国)

伊地知紀子、解放後濟州島出身者渡日の形成過程 在日濟州島出身者の生活史調査を通して、第12回コリア学国際学術大会、2015年8月21日、ウィーン大学(オーストリア)

塚田 孝、近世大坂の開発と社会 = 空間構造 道頓堀周辺を対象に、上海社会科学院「都市文化財研究」創造チーム・歴史研究所共催国際シンポジウム『国際的視野のなかでの都市文化遺産研究と保護』、2015年7月4日、上海社会科学院(中華人民共和国)

川野英二、大阪のジェントフィケーションセグリゲーション分析から、シンポジウム「続・都市が壊れるとき ジェントリフィケーションと現代都市」、2015年6月13日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府・大阪市)

伊地知紀子、在日濟州島出身者の生活史調査から日韓関係を考える、韓国近代学会、2015年5月9日、嶺南大学(大韓民国)

川野英二、戦前の大阪市調査～戦後のスラム調査における調査方法、第2回日米社会学史茶話会、2015年4月26日、成城大学(東京都・世田谷区)

川野英二、大阪における社会渋滞の地区効果、M・アルヴァクス・センター/社会科学高等研究院セミナー、2015年3月27日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

島田克彦、近代大阪の下層労働世界 1930年代の港湾労働者の事例、国際シンポジウム「日仏都市における社会的降格：歴史学と社会学の視点の交差」、2015年3月27日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

中條健志、移民「統合」問題 スクセンブルグの海外移民受入政策をめぐる談話分析、国際シンポジウム「日仏都市における社会的降格：歴史学と社会学の視点の交差」、2015年3月27日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

川野英二、大阪における社会渋滞の地区効果、M・アルヴァクス・センター/社会科学高等研究院セミナー、2015年3月27日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

佐賀 朝、近代大阪の都市周縁 近世から近代へ、国際シンポジウム「日仏都市

における社会的降格：歴史学と社会学の視点の交差」、2015年3月26日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

伊地知紀子、在日コリアンをめぐる植民地主義とレイシズム、国際シンポジウム「日仏都市における社会的降格：歴史学と社会学の視点の交差」、2015年3月26日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

川野英二、大阪における都市降格と空間的セグリゲーションの効果、国際シンポジウム「日仏都市における社会的降格：歴史学と社会学の視点の交差」、2015年3月26日、フランス国立社会科学高等研究院(フランス)

伊地知紀子、Imperial Japan and the Migrant Female Divers of Jeju Island in South Korea、Association for Asian Studies(AAS)Annual Conference、2014年7月19日、National University of Singapore、(シンガポール)

伊地知紀子、the cooperation folabor of diving women in Jeju island,South Korea-Cooperation for whom,and for what?、Inter-Congress IUAES、2014年5月7日、幕張メッセ(千葉県・千葉市)

⑳ 塚田 孝、垣外仲間の由緒と四天王寺、国際円座「伝統都市の比較類型史 日本とフランスの場合」セッション「都市の由緒と集団・家の由緒」、2014年3月6日、大阪市立大学(大阪府・大阪市)

㉑ 伊地知紀子、境界を渡る人びと 在日濟州島出身者の生活史から、京都人類学会2月例会、2014年2月28日、京都大学

㉒ 佐賀 朝、コメント、大阪市立大学都市文化研究センター・釜山大学校韓民族文化研究所第4回合同シンポ「中世・近世における都市の姿と生 韓国と日本の事例」、2014年2月7日、釜山大学校(韓国)

㉓ 塚田 孝、近世大坂の非人の家と人別、大阪市立大学都市文化研究センター・釜山大学校韓民族文化研究所 第4回合同シンポ「中世・近世における都市の姿と生 韓国と日本の事例」、2014年2月7日、釜山大学校(韓国)

㉔ 仁木 宏、古代・中世大阪の都市変遷 都城・宗教都市・城下町、大阪市立大学都市文化研究センター・釜山大学校韓民族文化研究所 第4回合同シンポ「中世・近世における都市の姿と生 韓国と

日本の事例」、2014年2月7日、釜山
大学校（韓国）

- ②⑥ 佐賀 朝、近代大阪の都市空間形成 伝統
都市から近代都市へ、大阪市立大学・上
海大学国際共同シンポジウム「都市社会
史の方法と実践 中国と日本の比較を通
じて」、2014年1月9日、上海大学（中
国）
- ②⑦ 塚田 孝、論評へのリプライ、日仏二国間
交流事業・セミナー「空間・身分・制度
—日仏都市史のパーспекティブ」第1
部「日本近世の社会と身分 Annales 日
本近世史特集の論評」、2013年11月22
日、パリ第4大学（フランス）
- ②⑧ 仁木 宏、15・16世紀京都における都市
構造と「都市文書」、研究集会「西欧およ
び日本中世の都市空間における私文書の
公証」、2013年10月15日、ストラスブ
ール大学（フランス）
- ②⑨ Kurumi Sugita、川野英二、Le rôle
d'aidant familial et la vie
professionnelle、第5回フランス社会学
会大会、2013年9月2日、ナント（フ
ランス）
- ③⑩ 伊地知紀子、濟州島民と解放、4・3、6・25
濟州島で生きる人びとと闘うこと、
日本学術振興会日韓共同研究 ISPS「冷戦
期日韓におけるアメリカの表象 情報宣
伝政策と民衆の対米認識」2013年度第1
回ワークショップ、2013年8月3日、ソ
ウル大学（韓国）
- ③⑪ 仁木 宏、京都（みやこ）の変貌 「洛中
洛外図屏風」から豊臣秀吉の時代へ、
第37回地中海学会大会、2013年6月15
日、同志社大学
- ③⑫ 川野英二、Comparaison internationale
sur la ségation et la perception
de la pauvreté、Lésole
theacute;matique;LA COMPARAISON、
2013年6月13日、ピアリッツ（フラン
ス）
- ③⑬ 佐賀 朝、大正～昭和初年の都市大阪にお
ける市場社会 中央卸市場設置問題を素
材に、大阪歴史科学協議会2013年度大
会、2013年6月8日、関西学院大学

〔図書〕（計 9件）

セルジュ・ボーガム（川野英二・中條健
志訳）新泉社、貧困の基本形態、2016、
409

伊地知紀子、社会評論社、消されたマッ

コリ。朝鮮・家醸酒文化を今に受け継
ぐ、2015、183

伊地知紀子、Atsuhumi KATO、and
Ryoko SAKURADA、Palgrave、
Rethinking Representaation of Asia
Women:Changes,Continuity,And
Everyday Life、2015、190

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、
皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、
高誠晩、ソニン、在日濟州人の生活史2 故
郷の家族、北の家族、2015、359

塚田 孝、清文堂出版、都市社会史の視点
と構想—法・社会・文化—、2015、350

伊地知紀子、学古房（ソウル）海女研究
叢書3 歴史学、2014、617

塚田 孝・佐賀朝・八木滋、清文堂出版、
近世身分社会の比較史 法と社会の視点
から、2014、470

伊地知紀子、濟州大学校耽羅文化研究所、
耽羅文化学術叢書16、日本人学者が見た
濟州人の生 生活社会の創造と実践、
2013、301

塚田 孝、大坂の非人 乞食・四天王寺・
転びキリシタン、ちくま新書、2013、
254

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐賀 朝（SAGA,Ashita）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40319778

(2) 研究分担者

川野 英二（KAWANO,Eiji）
大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：20335334

伊地 知紀子（IJICHI,Noriko）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40332829

(3) 連携研究者

塚田 孝（TSUKADA,Takashi）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60126125

仁木 宏（NIKI,Hiroshi）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：90222182

大倉 祐二（OHKURA,Yuji）
松山大学・人文学部社会学科・准教授
研究者番号：00419681